

1 広尾町の新たな取組

① 広尾っ子応援団登録制度

広尾っ子応援団の登録要件は3つです。はじめの2つの登録要件が意味するところをお話しします。

学校の先生方の重要な仕事に教材研究があります。教科書以外のものも使って、よりよい授業、例えばよくわかる授業や主体的に取り組む授業などを行おうと色々な準備をします。これが教材研究です。

教材研究をしている中で「地域の情報が欲しい！」と応援団に向かって発信したら、「それ知っているよ！」「それもっているよ！」と返ってくるパイプをつくりたいと考えています。

次に、「地域学校協働活動」という言葉を説明します。

学校がコミュニティ・スクールになると、学校と地域が共通の目標をもちます。

学校は授業という形で目標を実現しますが、地域や家庭もまた、その目標実現に向けた方策を考え実行することが期待されます。その地域や家庭の取組のことを地域学校協働活動と言います。この活動に「自分の生きがいや生涯学習になるかも知れない。」と思うものがあったら参加してくださいということです。

広尾っ子応援団登録制度とは

【登録要件】

- 応援団からの情報を受けることができる方
- 授業づくりに関する地域の素材や人材についての学校への情報提供や地域学校協働活動に可能な範囲で協力できる方（任意）
- 「応援メッセージ」を年1回以上届けることができる方（必須）

「応援メッセージ」を、多くの町民が参加する息の長い地域活動にするとともに、広尾町のCSを地域全体で支えます。

② 応援メッセージ

3つ目の登録要件は、「応援メッセージ」を年1回以上届けることができる方です。

応援メッセージ活動とは、「誇らしく思ったり、感心したりなど、心に残った広尾っ子の言動や活躍の感想など」を応援団事務局（教育委員会CSコーディネーター）に届けることです。事務局の私は、そのメッセージを学校に届けます。

目指すところは、「子どもたちに自己肯定感をほぐくむとともに、広尾町を町民の温かなまなざしに包まれた、広尾っ子の心の居場所とすること」です。

「子どもたちには、自分のよいところに気付いて、自信をもって色々なことに挑戦してほしい。そして、自分が育ったこの町には温かい『まなざし』をもった大人たちが一杯いることを知って、この町を好きになってもらいたい」ということです。

先生方には、届いたメッセージを子どもたちに伝えてもらうよう、既にお願ひしてあります。

メッセージをもらった時の子どもたちの様子を思い浮かべながら、町民の方にも楽しみながら参加してほしいと思います。

応援メッセージとは

- 誇らしく思ったり、感心したりなど、心に残った広尾っ子の言動や活躍などについて感想を交え窓口（CSコーディネーター）に届けてください。
- CSコーディネーターは受け取ったメッセージを学校に届けます。

子どもたちに自己肯定感をほぐくむとともに、広尾町を町民の温かな「まなざし」に包まれた、広尾っ子の心の居場所とすることを目指します。

2 応援メッセージの背景

① 広尾っ子の長所

「応援メッセージ」の取組をはじめようとした背景を3つお話します。

まず「広尾っ子の長所」です。

昨年、11月29日、広尾町のCS制度導入のために熟議が行われました。テーマは「広尾の子どもの長所、短所」です。教職員、地域の方々合せて60名くらいの方が話し合いに参加しました。

これは、その長所についてまとめたものです。真ん中の列は、地域の方も教職員も共通だったところ

です。

「挨拶ができる」「少年団、部活動を頑張っている」「仕事や役割を一生懸命する」等々、子どもたちのよさを広尾の大人はたくさん知っています。

朝、小学生や中学生と出会います。「おはよう」と声をかけると、「おはようございます」とごく自然に返ってきます。学校が荒れた時代を知っている人にとっては、「挨拶ができる」ことはあたりまえのことではありません。

背景の1つ目は「広尾の子どもたちにはよいところがたくさんあり、それを知っている大人もたくさんいる。」です。

応援メッセージの背景①		
第1回CS熟議より 【広尾っ子の長所】		
地域住民	地域住民・教職員	教職員
・小中高で連携が取れている ・町内の子どもの悪い噂を聞いたことがない ・授業態度がしっかりできている ・交通ルールを守ることが出来る	・挨拶ができる ・少年団、部活動を頑張っている ・仕事や役割を一生懸命する ・自分の好きなことは頑張る ・素直、明るく元気、優しい ・体を動かすのが好きだ ・他学年とも仲が良い ・子どもらしい	・自分たちで考えて行動ができる ・外で遊ぶことができる ・親とよく話す ・時間を守って行動ができる ・お年寄りに優しい ・お互いに教え合う、協力する

次は、広尾っ子の自己肯定感の実態です。

例えば、「自分にはよいところがある」と感じている子どもは「将来の夢や目標をもっていますか？」という質問に、「そう思う、どちらかとそう思う」と答える傾向にあります。また、学力についても高い傾向にあります。

そこで、広尾町の子どもたちの自己肯定感の実態です。全国・全道と比較しても肯定的な回答が低くなっています。

「熟議」であれほどたくさん挙げられた広尾っ子の長所ですが、「残念ながら、『自分にはよいところがある』とはっきり言える子が多いとは言えません。」これが2つ目の背景です。

全国学力学習状況調査
【広尾っ子の自己肯定感】

質問番号	質問事項										
(1)	自分には、よいところがあると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
広野町教育委員会	26.5	51.0	18.4	4.1						0.0	0.0
北海道（公立）	38.7	44.0	12.5	4.6						0.0	0.0
全国（公立）	41.2	42.8	11.6	4.3						0.1	0.0

全国学力学習状況調査
【広尾っ子の自己肯定感】

[illegible]

③ 広尾町コミュニティ・スクール元年

背景の3つ目は1月からのCSの導入です。

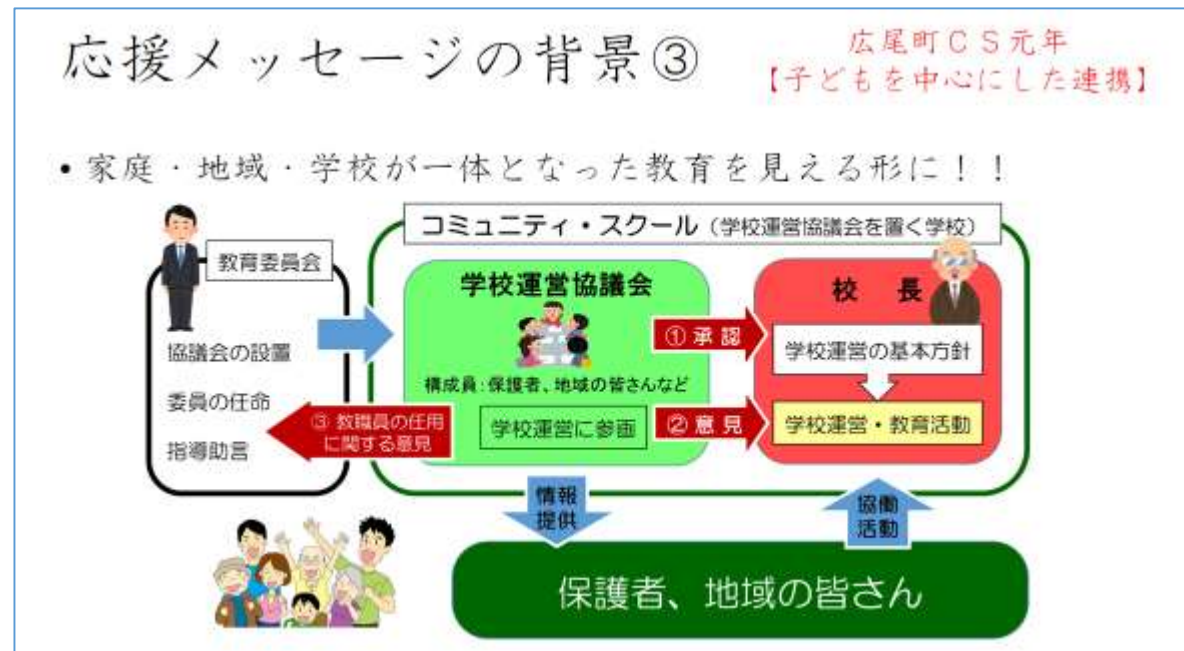
広尾町教育委員会は、「学校と、地域・家庭が目標を共有して、同じ方向を向いて、協働するのがCS制度です」と、何度も町民の方々にその趣旨を説明しています。

教育分野では、しばしば「家庭・地域と一体となった教育」というフレーズが登場します。特に「心の教育」を話し合う場では必ず使われます。このフレーズが多用されるのは、それぞれ単独でばらばらに頑張ったってうまくいかない、一緒にやらなければいけないと考えられるからです。

CSは学校運営協議会をつくれば制度としては完成です。

時々、組織ができたなら何となく解決策が見つかった様な気になってそこで一息ついてしまうことがあります。でも、大切なことはその組織や制度を子どもの成長に生かすことです。目の前の子どもを真ん中において、学校・地域・家庭が何をすべきか分かり合えなければ進みません。同じ土俵が必要です。

「CSの導入によって学校と地域と家庭が同じ土俵に立つチャンスが生まれた。」これが、3つ目の背景です。



3 大人の役割

① 体験と体験活動

子どもの成長に「体験は大事だ」ということに異論をはさむ人はいません。ただ、体験と体験活動は全く違うものだということに気を付けたいと思います。

大人が計画する体験活動は「ねらいや内容」のことです。しかし、体験は参加した子どもたち一人一人の内面につくられるもので、私たちは本人の口から語られて初めてその子が体験したことを知ることになります。

体験活動を計画した大人は「きっと驚くだろう」「興味をもつだろう」「心に残るだろう」と思っている、実際にはそうでないことはよくあります。でも、参加した子どもたちは大人の意図と違うところで心に残る体験しているかもしれません。

だから、活動の参加者で感じたことを伝え合うことには大きな意味があります。「自分は感じられなかったことが友達には感じられた」という気づきが新たな学びのスタートになります。

体験と振り返り（内省）の往還によって子どもの心は育っていきます。

体験と体験活動の違い

- 体験活動はあらかじめ予定された「ねらい」や「内容」
- 体験は個人の「思い」として語られるもの

体験活動は計画できても体験は計画できない

他者の存在がなければ心を耕す体験になり難い

② 応援メッセージに込めた願い

「心の教育」は子どもたちの内面に価値的なものの見方や考え方を育てることです。

価値とは、思いやりや優しさ、強い意志、命を大切にする気持ち、郷土愛などの心情や思い、ひと言で言うなら「人間としてのよさ」です。そうした「よさ」が自分にもあると自覚できた時、自己肯定感が高まります。

でも、ヤル気が見られないからといって、いきなり「羽生結弦や錦織圭のような強い意志をもて！」言われても、私が思春期の子どもなら「むり」と言い返すでしょう。

はじめから「強い意志」と言えるものをもっている子どもなんかいません。でも、いずれそうなる芽はもっています。それを子どもたちが自覚し、自ら育てようとする。それ以外に心を育てる方法はありません。

「あの人たちほどではないかもしれないが、君たちの中にも、いずれ彼らと同じものに育っていく芽がある。その芽を一緒に探そう。」と、多くの大人にかかわってもらえるようにするのが「応援メッセージ」です。

「大人のまなざしを手掛かりに、自分の『よさ』の芽に気づき、それを自分で大きく育ててほしい。」

この取組にそんな願いを込めています。

